

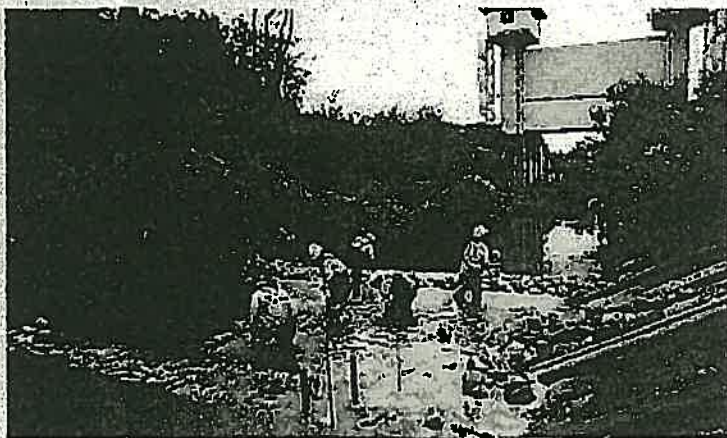
矢作川が抱える様々な課題について、国土交通省の音頭で関係機関、市民、有識者が話し合う「矢作川流域圏懇談会」。その成果として、魚の住みやすさに配慮したちょっとした工事が行われている。【新見克也】

矢作川流域圏懇談会

落差60センチを3段に分散
久澄橋の下流(御立公園付近)で矢作川に合流する支流・加茂川では、水門直下の大きな落差を解消して魚が自由に泳ぎ来ることができるようにと、石積み等の落差工を2段造っている(右写真)。

この加茂川水門は洪水で矢作川の水位が上がったとき、加茂川に逆流しないよう設置されている施設。水門直下の落差が60センチほどもあり、魚の往来が難しかった。矢作川流域圏懇談会で「魚

2段の落差工で20cmずつ水位を上げ、加茂川水門直下の落差(現在60cm)を20cmにおさえる。



住みやすくなる

加茂川水門の落差解消

の住みやすくなる」を話し合ってきたが、試行的に改善することになった場所だ。

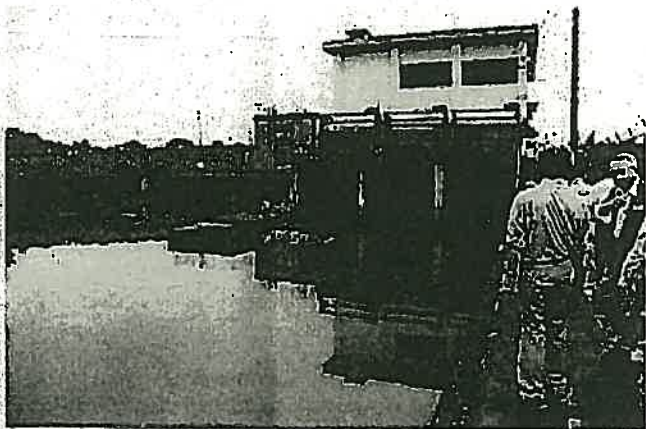
工事は大掛かりでなく、他の工事現場で出た石を使った「ひと工夫」的なもの。60センチの落差があった水門の下流に落差工を2段設置し、20センチずつ水位を上げることで、水門の落差を20センチに抑える。

施工は手作業で、NPO法人矢作川森林塾、流域圏懇談会事務局、国土交通省の職員たちもボランティア参加していた。出水

水中にひと工夫

農業排水路に越冬深場

6年計画で建て替えられる上郷柳川瀬排水機場。それに合わせ農業排水路に魚の越冬場となる「深み」が造られる。



時には獲れることもあるだろうが、まだ手直しすればいい。そんな雰囲気での試行だ。

排水機場の新設に合わせて深みに合わせて深み

豊田市宮柳川瀬公園の隣を流れる農業排水路では、魚たちが越冬しやすい「深み」をつくる計画が実行に移されようとしている。これはこの冬から6年計画が始まる「上郷柳川瀬排水機場」の建て替え計画に合わせて行われるもの。流域圏懇談会との意見交換で出された魚への配慮の提案を、施工者の興が理解して実施することになった。先月23日には流域圏懇談会の一行と興職員が現場を訪れて勉強会も行った(左写真)。

深場を掘るのは工事期間の最後になるため6年後の手定だが、工事が始まるこの秋には今いる魚を捕獲して救出移動する作業が行われる予定だ。

【新見克也】